

河内町 

清水希容子

一般財団法人日本経済研究所 地域未来研究センター 研究主幹

河内町は、茨城県の最南端、関東平野の真ん中に位置し、利根川の下流に面した東西に長細い形をした人口約1万人のまち。かつての常陸国の生板、源清田、長竿、下総国の金江津が昭和30年の昭和大合併により一緒になった。河内の名は、河内郡に属し、利根川と新利根川に挟まれた沃地であることから、公募により選ばれた。

上野からJR常磐線で佐貫まで行き、関東鉄道に乗り換える。1両編成のワンマンカーで2駅先の終着駅・竜ヶ崎から1日数本のコミュニティバスに乗り約15分で役場に到着。

役場までの道中、江戸時代の面影を残した旧道に民家が並び、その周りに、地平線を見渡すかのように田園風景が広がっている。ここは山がなくほとんどが平らな土地で、田んぼの面積が、町全体の面積の約60%を占める。

この広大な田園風景を生んだのが、利根川の川の流れだ（右表参照）。河内町は、町の境界線の約半分が蛇行しながら太平洋にそそぐ利根川に面している。利根川の恵みをうけるとともに、洪水に悩まされ続けてきた。

河内町には、今までにいくつかの堤防が築かれ、それらは高く盛られた道路として残っている。新しい堤防が、川に近い場所へと移動して築かれるたび、沼地だった場所が開墾され、田んぼが広がっていった。現在の堤防の上はサイクリングロードとなり、河川敷の広いところは向こう側の堤防までの距離が約1km以上あり、ゴルフ場とグライダー用の飛

行場として利用されている。

古くから伝わる話によると、金江津地区の始まりは、四百年以上前、ここに、酒井鼎なるものが来住し漁業を営んだことだという。かつては漁業、現在は農業が人々の生業となり、川を中心としてそれらが成り立ってきた。

平成8年、町は第三セクター「ふるさとかわち」を設立し、“おかずのいらぬかわちのお米”の販売を始めた。茨城県は、米収穫量が北海道、新潟、秋田に次いで多い県で、それまで県内で収穫された米のほとんどは“茨城産米”として出荷されていた。当時は米に町の名前を付けることは先駆的な取組で、減農薬や土づくりにこだわり、食味値表示を行い、美味しいお米としてのブランドを確立している。

大きな川の流れに広がる河内町の田園風景は壮大で、春から初夏にかけて、紺碧の空に苗色が一面に広がり、育ち始めた青田の稲が風になびくと、まるで大地が踊っているようになる。秋には黄金の稲を実らせる……その風景を眺め、青年はいつの時代も大志を抱く。

“河内偉人”としてまちのホームページで紹介されている歌人・大野誠夫は、「逢ひたかる人みな失せし川べりの村歩みをり眠れるわれは」と詠んだ。気がつくと夢の中で子供の頃に遊んだ利根の川べりを歩いている自分がいた、と故郷を懐かしんだ。

川の流れは悠久の時を重ね、人とともに発展を続ける。

町のあり様について、由布院温泉の中谷健太郎氏は語りました。

小さいから、身近に暖かい関係が生まれる。

小さいから、個性的な価値を生み出せる。

小さいから、大きな資本を必要としない。

川と田んぼのまち

(単位：ha)

市町村名	近くを流れる川	田耕地面積	市町村の総面積
妹背牛町 北海道	石狩川	3,250	4,855
三川町 山形	赤川	2,150	3,321
南幌町 北海道	石狩川	5,180	8,149
美里町 宮城	鳴瀬川	4,760	7,506
河内町 茨城	利根川	2,750	4,432
新篠津村 北海道	石狩川	4,840	7,824
湯川村 福島	塩川	1,010	1,636
秩父別町 北海道	石狩川	2,800	4,726
白石町 佐賀	六角川	5,700	9,946
大刀洗町 福岡	筑後川	1,250	2,283
入善町 富山	黒部川	3,850	7,129
長沼町 北海道	石狩川	9,060	16,836
大木町 福岡	筑後川	981	1,843
舟橋村 富山	白岩川	184	347
川北町 石川	手取川	773	1,476
柳川市 福岡	筑後川	4,000	7,688
田舎館村 青森	浅瀬石川	1,150	2,231
高根沢町 栃木	鬼怒川	3,600	7,090

* 田耕地面積が総面積の50%以上を占める市町村のうち、川に接する市町村を比率の高い順に表示。

(資料) 農林水産省「作物統計」(2011年)、国土交通省「全国都道府県市町村別面積調」(2010年)



(写真) 河内町「図説 河内の歴史」